

令和 5 年度 第 3 回 尾張北部環境組合公害防止準備委員会 次第

日時 令和 6 年 2 月 1 9 日(月)

午前 1 0 時 0 0 分から

場所 江南市役所 3 階

第 2 委員会室

1 挨拶

2 議事

(1) 新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

(2) 工事期間における各種対策について

(3) 煙突から出る臭気について

3 その他

《配付資料》

資料 1 - 1 ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

資料 1 - 2 工事進捗状況報告

資料 2 工事期間における各種対策

資料 3 煙突からの臭気（排出ガス）の拡散について

○ごみ処理施設建設工事の進捗状況について（令和6年1月末時点）

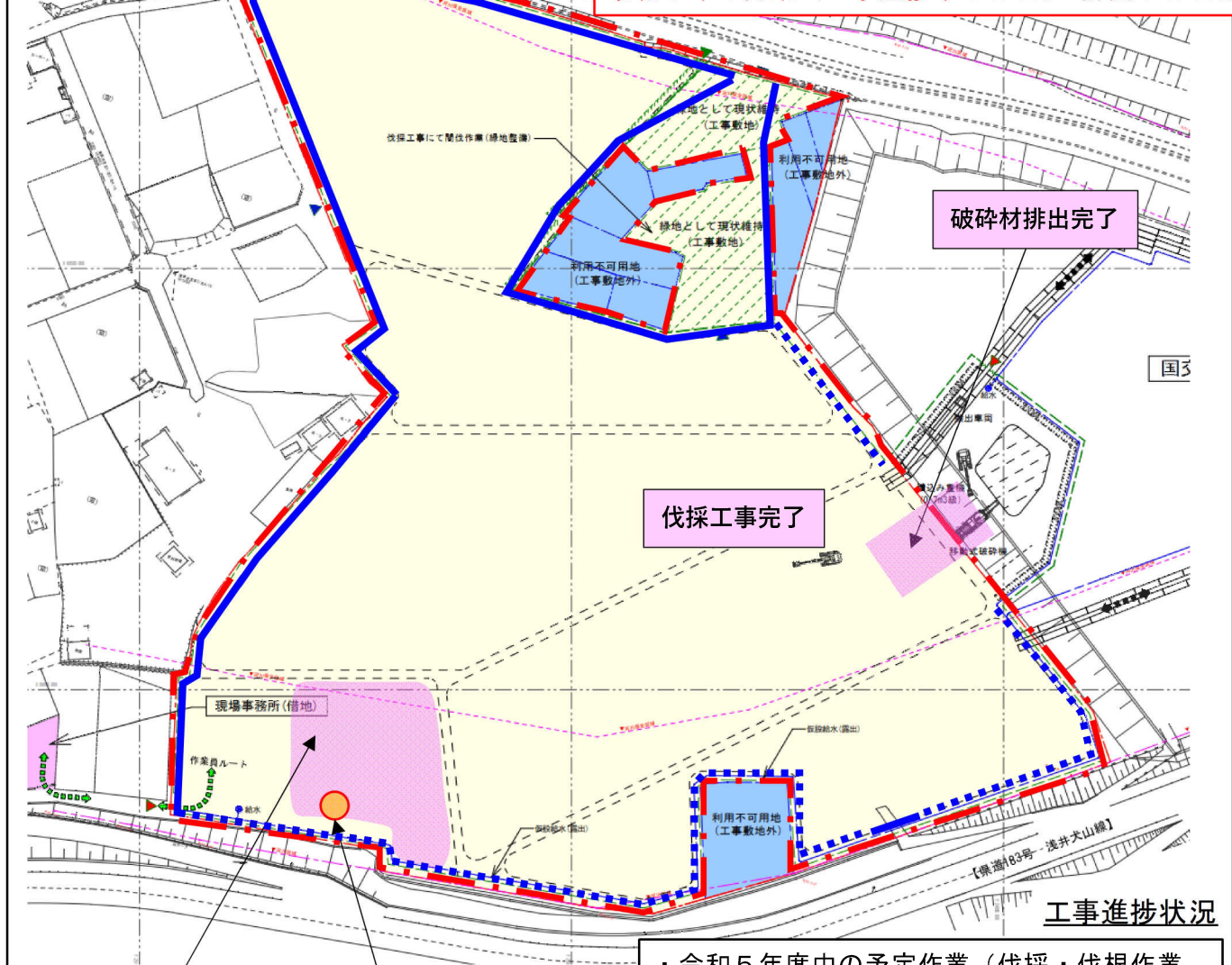
工程表

工事施工進捗図

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
施設詳細設計						
準備工事 (伐採)	▼令和5年9月着手	■文化財保護法に基づく試掘調査（江南市）				
土地造成工事		▼令和6年6月頃着手				
土木建築工事		▼令和6年12月頃着手				
プラント工事			▼令和7年12月頃着手			
試運転					令和9年11月頃▼	
運営期間						令和10年4月供用開始▼

起工式

令和6年1月末（工事進捗率：1.4% 計画：1.4%）



工事進捗状況

- 令和5年度中の予定作業（伐採・伐根作業、敷地南西部既存工作物撤去）は、既設中部電力電柱部の一部を除き全て予定通り完了。
※電柱周辺部は中部電力による電柱撤去作業（3月15日までに完了）と併せて撤去。
- 現在は、安全管理のための仮囲い、バリケード等を敷地外周部に設置。
- 令和6年1月15日（月）より江南市により埋蔵文化財試掘調査を実施。
- 工事進捗率は、計画1.4%に対して実施1.4%
- 令和6年度は、土地造成工事を実施後、土木建築工事に着手予定。また、令和6年1月26日（火）に起工式を実施予定。

凡 例

※既設電柱廻り一部後施工(残)あり

- : 事業敷地境界
- : 仮囲い
- : 単管バリケード、トラロープ

第3回 公害防止準備委員会

工事進捗状況報告

工事用のホームページでは、現在までに「2023年8月末～2024年1月末」までの定点写真を掲載しております。また、前回ご提案頂いた、工事用のホームページのQRコードについてもホームページ上に掲載しております。

（ごみ処理施設建設工事ホームページURL：<https://owarihokubu.com>）



工事用ホームページQRコード

次ページより、前回報告（2023年10月末）以降の工事写真を添付いたします。

2023年11月末 定点写真



2023年11月末 定点写真①



2023年11月末 定点写真②



2023年11月末 定点写真③



2023年11月末 定点写真④



2023年11月末 定点写真⑤



2023年11月末 定点写真⑥



2023年11月末 定点写真⑦



2023年11月末 撮影位置

2023年12月末 定点写真



2023年12月末 定点写真①



2023年12月末 定点写真②



2023年12月末 定点写真③



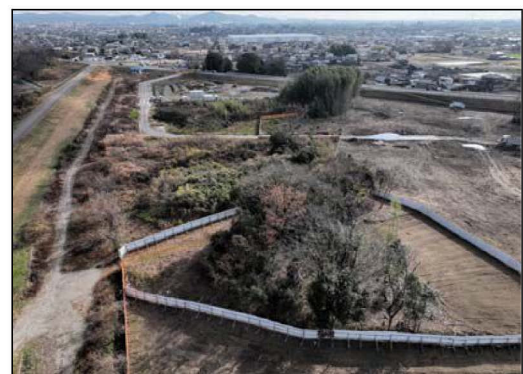
2023年12月末 定点写真④



2023年12月末 定点写真⑤



2023年12月末 定点写真⑥



2023年12月末 定点写真⑦



2023年12月末 撮影位置

2024年1月末 定点写真



2024年1月末 定点写真①



2024年1月末 定点写真②



2024年1月末 定点写真③



2024年1月末 定点写真④



2024年1月末 定点写真⑤



2024年1月末 定点写真⑥



2024年1月末 定点写真⑦



2024年1月末 撮影位置

工事施工状況写真



伐採工事施工状況



伐採工事施工状況（破碎）



破碎材飛散養生（ネット）



解体工事施工状況（工作物）



散水飛散養生（解体工事）



仮囲い設置状況



伐採・解体工事完了



環境美化活動（県道法面の清掃）

煙突からの臭気（排出ガス）の拡散について

資料 3

第8章 環境影響の調査、予測及び評価
8.1 大気質

イ. 予測結果と環境基準等との比較

煙突排出ガスによる1時間値の各気象条件の予測結果をまとめ、環境基準等と対比して表8.1.72に示す。

煙突排出ガスにより周辺環境への高濃度の影響が想定される各条件のうちダウンドラフト時の予測結果が最大となり、二酸化硫黄が0.0136ppm、二酸化窒素が0.0500ppm、浮遊粒子状物質が0.1046mg/m³、塩化水素が0.0063ppmである。いずれも環境基準等を下回ると予測する。

表8.1.72 大気質の予測結果（煙突排出ガス：1時間値）

区分	項目		大気安定度 不安定時	上層 逆転時	接地逆転層 崩壊時	ダウン ウォッシュ時	ダウン ドラフト時	環境基準等
	物質	単位						
最大環境濃度	二酸化硫黄	ppm	0.0088 (0.0008)	0.0102 (0.0022)	0.0116 (0.0036)	0.0083 (0.0003)	0.0136 (0.0056)	0.1以下 ^{注3)}
	二酸化窒素	ppm	0.0380 (0.0020)	0.0415 (0.0055)	0.0468 (0.0108)	0.0367 (0.0007)	0.0500 (0.0140)	0.1～0.2以下 ^{注4)}
	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0998 (0.0008)	0.1012 (0.0022)	0.1026 (0.0036)	0.0993 (0.0003)	0.1046 (0.0056)	0.20以下 ^{注3)}
	塩化水素	ppm	0.0015 (0.0008)	0.0029 (0.0022)	0.0043 (0.0036)	0.0010 (0.0003)	0.0063 (0.0056)	0.02以下 ^{注5)}
出現条件	大気安定度	—	A	B	Moderate Inversion	C	B	—
	風速	m/秒	1.0	1.2	1.0	14.5	1.0	

注1) ダウンドラフト時の予測結果がすべての予測値の中の最大となった。

注2) () 内は最大付加濃度を示す。

注3) 環境基準

注4) 短期暴露指針値（「二酸化窒素の人の健康に係る判定条件等について」（昭和53年3月22日答申 中央環境審議会））

注5) 目標環境濃度（環境庁大気保全局長通知（昭和52年6月16日 環大規第136号））

注6) 上記の1時間値に関する気象条件の出現頻度等は以下のとおりである。

- ・大気安定度不安定時：事業実施区域の年間の測定結果（風速は高さ52.6mの推定風速）で、大気安定度がA、風速が1～2 m/秒の年間の出現時間は184時間（2.1%）である。
- ・上層逆転時：事業実施区域の年間の測定結果（風速は高さ52.6mの推定風速）で、大気安定度がB、風速が1～2 m/秒の年間の出現時間は235時間（2.7%）である。
- ・接地逆転層崩壊時：接地逆転層は、特に冬季の晴天で風の弱い時に地面からの放射冷却によって深夜から早朝にかけて生じる現象であり、日の出からの時間経過とともに崩壊する。接地逆転層の崩壊現象は、通常1時間以内の短時間での現象である。
- ・ダウンウォッシュ時：事業実施区域の年間の測定結果（風速は高さ52.6mの推定風速）で、風速14.5m/秒以上の年間の出現時間は1時間（0.0%）である。
- ・ダウンドラフト時：事業実施区域の年間の測定結果（風速は高さ52.6mの推定風速）で、大気安定度がB、風速が1～2 m/秒の年間の出現時間は235時間（2.7%）である。

前回委員会で提示した部分

v. ダウンドラフト時

ダウンドラフト時の予測結果の最大値は表 8.1.71(1)に、各ケースの値は表 8.1.71(2)及び図 8.1.24 に示すとおりである。

煙突排出ガスの最大着地濃度は、風速 1.0m/秒、大気安定度 B のケースが最大となり、そのときの将来濃度は、二酸化硫黄が 0.0136ppm、二酸化窒素が 0.0500ppm、浮遊粒子状物質が 0.1046mg/m³、塩化水素が 0.0063ppm となる。

表8.1.71(1) ダウンドラフト時の予測結果（煙突排出ガス：最大値）

予測地点	項 目	付加濃度 ①	バックグラウンド濃度 ②	将来濃度 ①+②	環境基準等
最大着地濃度地点 (風下10m)	二酸化硫黄 (ppm)	0.0056	0.008	0.0136	0.1 以下
	二酸化窒素 (ppm)	0.0140	0.036	0.0500	0.1～0.2 以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0056	0.099	0.1046	0.20 以下
	塩化水素 (ppm)	0.0056	0.00071	0.0063	0.02 以下

表8.1.71(2) ダウンドラフト時の予測結果（煙突排出ガス：各ケース）

風速 m/秒	大気安定度	最大着地濃度				最大着地濃度 出現距離 m
		二酸化硫黄 ppm	二酸化窒素 ppm	浮遊粒子状物質 mg/m ³	塩化水素 ppm	
1.0	A	0.0055	0.0137	0.0055	0.0055	10
	B	<u>0.0056</u>	<u>0.0140</u>	<u>0.0056</u>	<u>0.0056</u>	10
2.0	A	0.0027	0.0068	0.0027	0.0027	10
	B	0.0028	0.0070	0.0028	0.0028	10
3.0	A	0.0018	0.0046	0.0018	0.0018	10
	B	0.0019	0.0047	0.0019	0.0019	10

注) 表中の下線は、最大着地濃度が最大となったケースを示す。

第8章 環境影響の調査、予測及び評価
8.1 大気質

排出基準よりもさらに1000分の1の単位

全頁のように風下10mの位置が最大

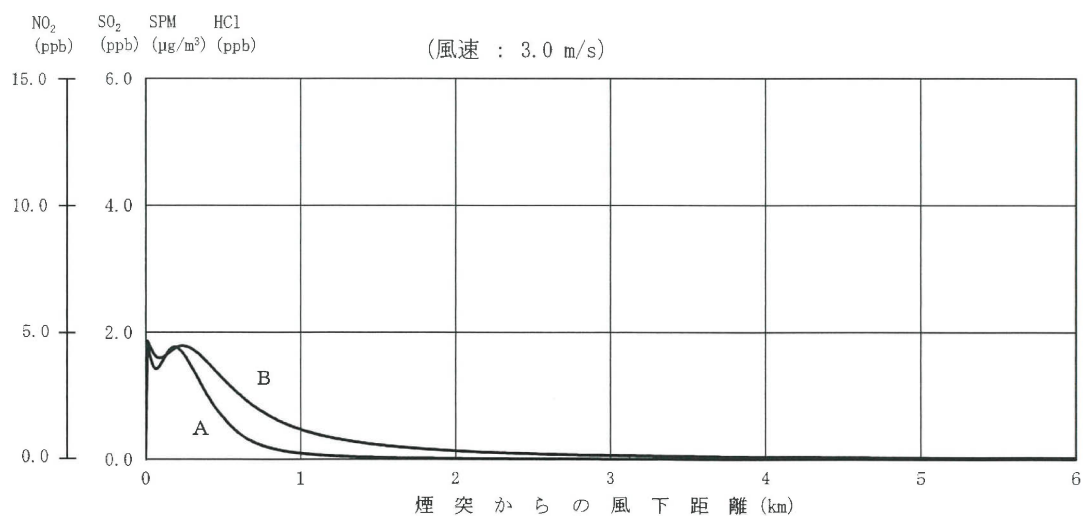
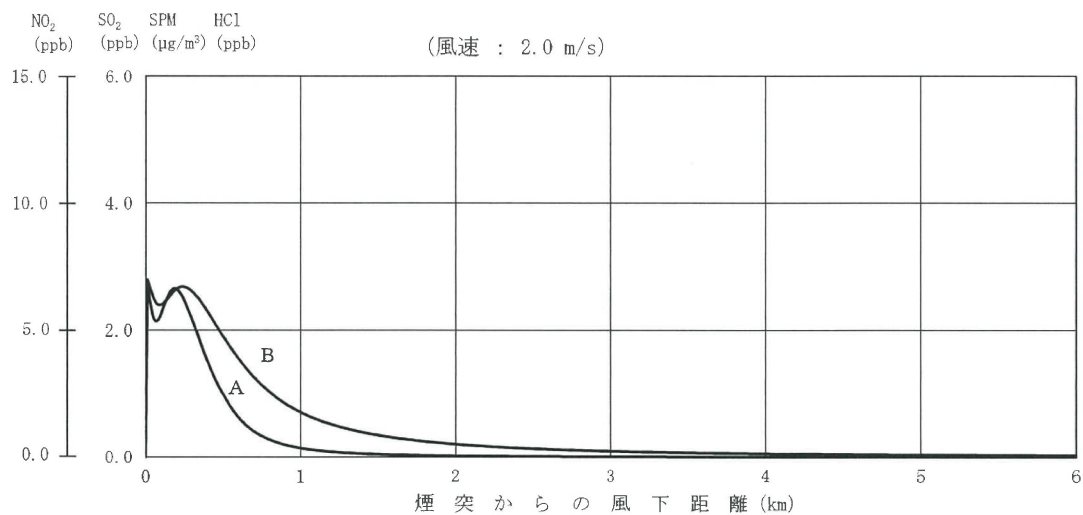
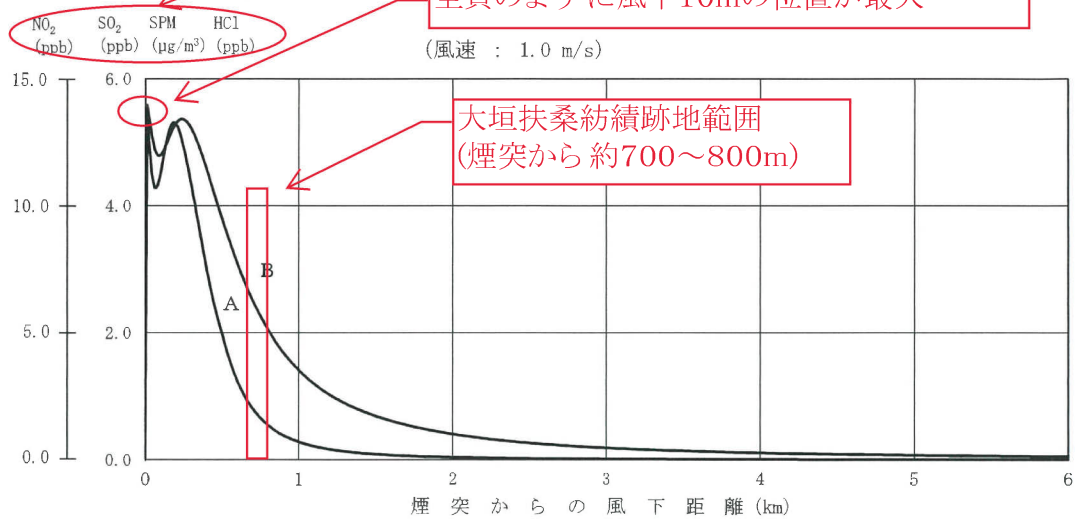


図8.1.24 ダウンドラフト時の予測結果 (煙突排出ガス)

iv. ダウンウォッシュ時

ダウンウォッシュ時の予測結果の最大値は表 8.1.70(1)に、各ケースの値は表 8.1.70(2)及び図 8.1.23 に示すとおりである。

煙突排出ガスの最大着地濃度は、大気安定度 C のケースが最大となり、そのときの将来濃度は、二酸化硫黄が 0.0083ppm、二酸化窒素が 0.0367ppm、浮遊粒子状物質が 0.0993mg/m³、塩化水素が 0.0010ppm となる。

表8.1.70(1) ダウンウォッシュ時の予測結果（煙突排出ガス：最大値）

予測地点	項 目	付加濃度 ①	バックグラウンド濃度 ②	将来濃度 ①+②	環境基準等
最大着地濃度地点 (風下590m)	二酸化硫黄 (ppm)	0.0003	0.008	0.0083	0.1 以下
	二酸化窒素 (ppm)	0.0007	0.036	0.0367	0.1～0.2 以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0003	0.099	0.0993	0.20 以下
	塩化水素 (ppm)	0.0003	0.00071	0.0010	0.02 以下

表8.1.70(2) ダウンウォッシュ時の予測結果（煙突排出ガス：各ケース）

風速 m/秒	大気安定度	最大着地濃度				最大着地濃度 出現距離 m
		二酸化硫黄 ppm	二酸化窒素 ppm	浮遊粒子状物質 mg/m ³	塩化水素 ppm	
14.5	C	<u>0.0003</u>	<u>0.0007</u>	<u>0.0003</u>	<u>0.0003</u>	590
	D	0.0002	0.0006	0.0002	0.0002	1,120

注) 表中の下線は、最大着地濃度が最大となったケースを示す。

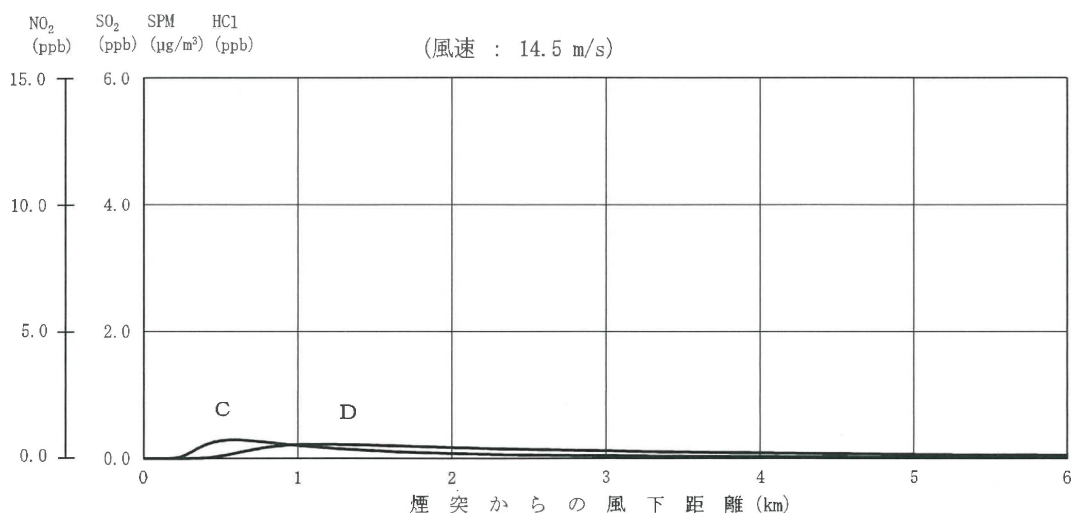


図8.1.23 ダウンウォッシュ時の予測結果（煙突排出ガス）

